



週報

Rotary
OITA JOSAI, 2720



会長 衛藤祐介
幹事 中山省悟

国際ロータリー会長
ゴードン R. マッキナリー
第 2720 地区ガバナー
膳所 和彦
大分第 4G ガバナー補佐
吉良 昌一



世界で希望を生み出す

大分城西ロータリークラブ

クラブ スローガン「委員会の活性化」

地区スローガン

ロータリーは学び舎であり、また遊び場である
そして今、ロータリーアクションは世界を変える。

<四つのテスト> 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

出席報告	4 月 17 日					3 月 6 日				
	会員総数	出席者数	出席率	ゲスト	ビジター	会員総数	出席者数	補欠数	修正出席率	
	29 名	21 名	72.41%	4 名	0 名	31 名	23 名	2 名	80.65%	

編集担当

4 月 山本真一
5 月 吉岡尚美
6 月 中村智美

例会日 水曜日 12:30~13:30 事務局 〒870-0021 大分市府内町キハ会館 4 階 Eメール oitajosairc@mist.ocn.ne.jp
例会場 ホテル日航大分オアシスタワー TEL 097-532-0611 FAX 097-532-8386 ホームページ http://oitajosair Rotary Club

2023-2024 第 32 回例会 環境月間

4 月 24 日 No.1555

◆本日のプログラム

12:30	点鐘
	ロータリーソング「四つのテスト」
	ゲスト・ビジターの紹介 衛藤祐介 会長
	会長の時間 衛藤祐介 会長
	出席報告及び幹事報告 中山省悟 幹事
	ロータリー情報 R 情報担当委員
	委員会報告 各委員会
	スマイルボックス 親睦担当
13:00	大見正樹様(大分銀行アセットコンサルティング室 室長)
	『ともに進もう豊かな未来へ ～世界経済と相場動向～』

◆今週のお祝い

●結婚記念日	仲道俊寿会員 S63 年 4 月 29 日
	中山省悟会員 H17 年 5 月 14 日
●配偶者誕生日	岩田和久会員 美穂夫人 4 月 24 日
	衛藤祐介会員 直美夫人 4 月 26 日
●会員誕生日	首藤哲也会員 5 月 8 日

◆幹事報告

ナシ

◆ゲスト・ビジターの紹介(4 月 17 日)

●ゲスト	甲斐公人特別代表
湯布院 RC	富永健司様 ・ 江藤幸雄様
	田内康男様

◆今後の例会予定

● 5 月 1 日	定款第 7 条第 1 節に基づき例会取りやめ
● 5 月 8 日	〃
● 5 月 15 日	クラブ協議会「今年度を振り返って」
● 5 月 22 日	廣瀬舜一会員の卓話
● 5 月 29 日	クラブ協議会「次年度委員会ごとの奉仕計画の協議」
● 6 月 5 日	6/6(木)例会変更
● 6 月 6 日	会員増強親睦夜例会
●職業奉仕 3 分スピーチ	
高木昭信会員	
(5/15)神野会員 (5/22)吉岡会員	

◆ご祝儀

特別代表 甲斐公人様、湯布院ロータリークラブ様よりご祝儀を頂きました。

◆スマイルボックス

大分城西 RC 全会員 各2口

本日、大分城西ロータリークラブ創立 34 周年記念例会を祝し、全会員より2口お願い致します。

会長の時間(4 月 17 日) 会長 衛藤 祐介

ガウディの宇宙

サグラダ・ファミリアが楽器になる日

アントニオ・ガウディ。皆さん良くご存じのスペインバルセロナの「サグラダ・ファミリア(聖家族贖罪教会)」の設計者です。今日、城西ロータリークラブは設立 34 周年を迎えますが、歴史の重みは何物にも代えがたいものがあります。

サグラダ・ファミリアは 1882 年に着工してから既に 142



年。贖罪教会なので、資金調達は信者の喜捨に頼ってきました。資金不足により工事がなかなか進まず、完成まで 300 年かかるとされてきましたが、建築技術の進化によって 2026 年に完成することが発表されました。



ガウディは全てを投げうって聖家族教会の建設に臨んでいましたが、1926 年 6 月 7 日午後、地下聖堂の現場を出てミサに行く途中、コルテス・カタラーネ通りを横切ろうとして、市電にはねられて亡くなってしまいます。彼は貧しい身なりをしていたため、3 日間浮浪者として身元が判明しませんでした。

現在では、彫刻家の外尾悦郎が 1978 年から従事しており、主任彫刻家として全体を取り仕切っています。

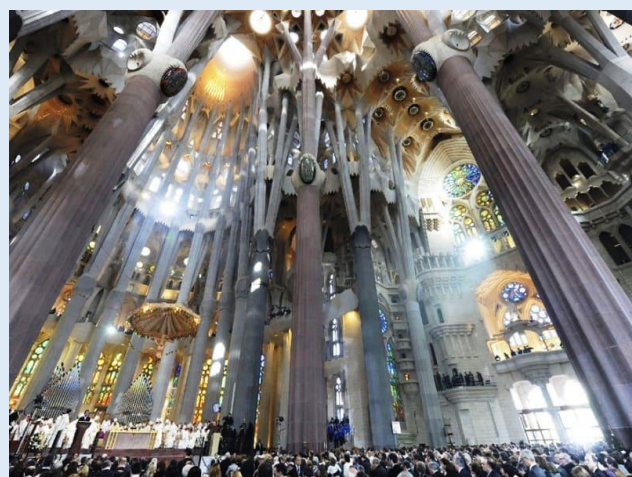
サグラダ・ファミリアの構造はローブを垂らした曲線を上下逆さまにした形態になっています。

礼拝堂である、その内部の柱は、驚くべきことに！木の形です。上のほうで枝分かれして、葉っぱのようになっています。内部は広く、森の中にあるような親密さがあります。光にあふれて、自然光が差し込んで来る。教会の従来のイメージからはほど遠い、自然の空間を創造したのです。中央の廊下から祭壇に向かうと、そこは幅 45 メートル、奥行き 90 メートル、1 万人の人が集まる巨大な空間が現れます。



この教会をガウディは巨大な楽器と考えていました。最終的に出来上がると 18 本の塔に 84 の鐘が吊るされて音楽を奏でます。ガウディはバルセロナの街中に音を響かせる、サグラダ・ファミリアという壮大な楽器を創ることに、情熱を傾けていたのです。サグラダ・ファミリアの鐘塔は、中に入ると螺旋階段になっていて、鐘の響きを考慮した形状だと考えられます。楽器としての機能のため、音が効果的に響くような構造に設計され街中に音が響くように多数の穴が開けられています。100 年前、塔に鐘を吊るして、それを鳴らすことはできたでしょうが、大きな建物のあちらこちらに配置させた 84 の鐘をシンクロさせて、メロディを奏でる方法は、想像がつかなかったでしょう。ガウディは、この聖

堂が完成するころには、離れた場所にある鐘の動作を制御する技術が出来上がっていると確信していたのです。クリスマスの夜、バルセロナの街並みに聖なる鐘が音楽を奏でる日も間近です。



人間の時間を越えた 140 年という建設期間。法隆寺のように 1000 年という時間を過ごしてきた建築も存在します。地球の誕生が 46 億年前、宇宙の誕生は 138 億年前と言われ

ます。人間が 100 年も生きないことを考えると、その存在がなんとちっぽけなものなのか思い知らされます。宇宙の中のほんの一瞬の自分の人生。人間同士で、小さなことでいがみ合うのでは無く、ロータリーの「四つのテスト」のように生きることが、自分の人生の指針なのだと感じる今日この頃です。



創立 34 周年祝賀会

開会の挨拶

会長 衛藤 祐介

本日は大分城西ロータリークラブ 34 周年記念例会です。

人間の人生は永いものだと思ってきましたが、70 歳を過ぎて考えてみますと、瞬間に人生の終焉に来てしまったと感じます。

最近ラジオで良くかかる曲に、竹内まりやの「人生の扉」というのがあります。高校の同窓会でもこの曲のビデオが流されました。

春がまた来るたび ひとつ年を重ね 目に映る景色も 少しずつ変わるよ
陽気にはしゃいでた 幼い日は遠く

気がつけば五十路を 越えた私がいる

満開の桜や 色づく山の紅葉を
この先いったい何度 見ることになるだろう
信じられない速さで 時が過ぎ去ると 知って
しまったら どんな小さなことも 覚えていた
いと心が言ったよ

終わりには

君のデニムの青が 褪せてゆくほど 味わい増
すように

長い旅路の果てに 輝く何か 誰にでもある
さ

と 90 歳までの人生を歌います。

歳をとってくると、このような歌が心にしみるよ
うになってきます。

大分城西ロータリークラブが、甲斐公人特別代表
等の力で大分南ロータリークラブから独立したの
は 1990 年（平成 2 年）のことです。奇遇なことに
私の事務所が開設したのも同じ 1990 年なのです。
私は大学を卒業した時から、30 歳で地元で独立し
ようと心に決めていました。東京の設計事務所を
辞めて大分に戻ったのが 25 歳、1976 年のことだ
す。大分の設計事務所に勤めた後、1982 年 31 歳
で独立しました。

当初はスタジオ Y という名前で個人事務所を開
き、大分大学の学生 3 人をアルバイトで雇いま
した。そして 8 年後、1990 年 39 歳の時に株式会
社 MCS 環境計画としてスタッフ 10 名を抱えて法人
登記を行っています。

城西ロータリークラブと同じ時間を共有してき
たと思うと感慨深いものがあります。

ただ、私は経営能力が皆無で毎月社員の
給料を払うのに四苦八苦、段々物作りから
遠ざかって行く自分に不安を感じていま
した。

金を儲けることや、贅沢をすることにさ
ほど興味がわきません。

今ではスタッフも皆独立して全国に散ら
ばっており、私は一人でゆったりと物づく
りに集中出来ています。自分が食っていけ
るお金さえ稼げれば、好きな創作活動に浸
っている時間が至福のひと時となっています。

企業のトップが集まる、ロータリークラ
ブで私のような者が会長を務めるのはど
うかという思いがありましたが、あと 2 か
月でやっとお役御免となります。

時間の重みと言うものは何物にも代え
がたいものです。当クラブも先輩方の努力
でここまでつながってきました。

ロータリーに年齢は関係ありません。こ
れから、今現役の私たちが人任せにするの
ではなく、率先して泥をかぶるつもりで行
動していくことで、大分城西ロータリーク
ラブも発展していくのではないかと思います。

本日はごゆっくりと歓談頂き、大いに議
論を深めましょう。

来賓祝辞

特別代表 甲斐 公人 様

大分城西ロータリークラブが創立 34 周年を迎
えられ、記念例会並びに祝賀会が開催されますこ
とは誠にめでたく、衛藤会長様、中山幹事様はじめ
会員の皆様へ心よりお祝い申し上げます。私も特別
代表として大変うれしく毎年この時期になります
と当時のことが蘇って参ります。

私は、1989 ～1990 年度の寿崎ガバナリーより 11
月特別代表の委嘱状を頂きました。その後大分市
内 6 ロータリークラブの会長幹事様にお集まり頂
き、大分南ロータリークラブをスポンサークラブ
とし、他の 5 クラブにはコ・スポンサーを、各クラ
ブの会長・幹事様には新クラブの設立準備委員をお
引き受け願いました。翌年 1 月 24 日付で RI 日本
支局よりアディショナルクラブ結成が承認されま
した。そこで、設立準備委員長(キーマン)を古城敏
雄氏、設立準備委員を伊藤昭華氏、堀永孚郎氏にお
願い致しました。

1990 年 4 月 22 日(日)に創立総会を開催し、5
月 9 日 RI 日本支局より国際ロータリー加盟承認の
連絡を受け、日本で 1894 番目、2720 地区(当時は
272 地区)で 67 番目、大分市内で 7 番目のクラブ
として誕生致しました。

当時私は、大分南ロータリークラブの会長でも
有り、結局、「特別代表」と「スポンサークラブ会
長」という 2 足のわらじを履くことと成りました。
チャーターナイトは寿崎年度を締め括る 1990 年 6
月 30 日に開催致しました。このように短期間のう
ちに、それも年度最後の日にチャーターナイトを行
ったのは、今までに例の無いということでした。
この年度には 2720 地区で 8 つの新クラブが誕生
したということもあり、新クラブの特別代表にチャ
ーターナイトに出席して頂き華を添えて頂きまし
た。チャーターナイトでは鏡割りをしたり、庄内神
楽に舞って頂いたり、34 年前の記憶が昨日の事
のようにはっきりと思い出されます。

最近メジャーリーグの話題をメディアでよく見聞
しますが、以前『メジャーリーグに学ぶ経営学』
という本を目にしました。そこにはあのメジャーリ
ーグでさえも「技術力よりも人間力を磨け」と書い
てありました。そのために最も大切なのはコミュニ
ケーション上手になること。また多くのメジャーリ
ーガーは様々な社会奉仕活動を行っている。そうす
ることが当たり前というような認識を持っている。
こうした一流の人々をアメリカでは「品格を持った
人」と評してこの品格の有無こそがその人の人間
力の表れであり、社会的に尊敬されるべき人かそ
うでないかの指標となる…と記してありました。
私はメジャーリーグにはどこかロータリーと通じ
る物を感じました。多くのロータリアンは、ロータ
リーの最大の長所はすばらしい友情にあると考え

ています。創始者ポール・ハリスはその典型であり模範でした。そして彼が創始したロータリーは単なる男性のクラブ組織をはるかに超え、奉仕の精神と善意に基づいた世界的な運動に発展したのです。ポール・ハリスは「ロータリーには未来がある。なぜならばロータリーは善意の一つの塊であるからだ」と言いました。その塊の中の一かけらであることをロータリアンの皆さんに認識していただきたいのです。善意の押しつけではなく善意の一かけらとなって自分たちを生かさせていただいている地域社会や国際社会に対して、その善意をどのように結びつけていくかを考えなければなりません。これがロータリーの哲学です。哲学なくしてロータリーは語れません。

どうか皆さん、これからもロータリーを学び、ロータリーを楽しんで下さい。

最後になりましたが、大分城西ロータリークラブが今後ますますご発展されます事を祈念致しますとともに 会員並びにご家族の皆様方のご多幸とご健勝をお祈り申し上げ、お祝いのご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

来賓祝辞 湯布院 RC 会長 富永 健司 様

本日は大分城西ロータリークラブ様の創立 34 周年 誠におめでとうございます。

1996 年 4 月 21 日 湯布院ロータリークラブとしては初の姉妹クラブ協約に大分城西ロータリークラブ様と協定調印をさせて頂きました。姉妹クラブ協約から 28 年が過ぎようとしております。2018 年には大分城西ロータリークラブ様プロジェクトに協賛して陽光桜 30 本の記念植樹を湯布院の高台に会員家族留学生や子供たちなど 100 名を超える人々の手で植樹いたしました。その桜も今や立派な花びらを咲かせるようになり、付近の桜とは枝ぶりの様子やピンク色の花の咲き具合は群を抜いて輝いています。湯布院の盆地から南の山腹に目を向けて頂きましたらピンク色の桜が咲き誇っている雄姿を見ることができます。桜の季節に是非お越しいただきたいと思います。その桜の成長を楽しみに毎年桜の下で花見例会を合同で行っており花見終了後には湯布院町内のごみ拾いも恒例行事になっております。花見の準備や片づけなど城西ロータリークラブ様にはいつもお世話になりっぱなしで申し訳なく思っておりますが、そのごみ拾いの様子を 4 月 3 日の大分合同新聞に城西ロータリークラブ様が写真掲載されイメージの向上につながり大変良かったと思っています。これから先 20 年 30 年と陽光桜が大木に育って行くことを大変楽しみにしております。これからも大分城西ロータリークラブ様のご健勝とご活躍をお祈り申

し上げ、創立 34 周年記念のお祝いの言葉とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

祝賀会の様子

